

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ローマンうえだの理念を基本とし、事業所独自の理念を作成し、それに基づいた4つのケア方針を重視した生活支援を行なっている。	○法人理念及び事業所の運営方針「尊厳の保持」「自立を助ける環境」「健康の保持」「豊かな人間関係を支え合う」を会議等で読み合わせ、唱和する等全職員の周知共有に努めていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月1回、地域の健康教室へ参加し、地域の方との交流を図っている。又、運動会等の地区行事や、草刈り、環境整備などの活動へ参加している。普段から、近所のお宅への庭の見学、散歩、買い物などの触れ合いがある。又、夏祭りを開催し地域の方々との交流を深めている。今年度は、コロナ禍のため活動が制限されている。	○法人組織は、開設当初から、誰もが地域に生きる一人として尊厳を持って暮らすことができるように、利用者・ご家族、地元自治会、ボランティア、行政と一緒に「安心の地域づくり」を合言葉に、セミナーの開催や地域交流活動を積極的に展開し、当事業所も、地域の一軒としての役割を担うための様々な地域交流活動を実践しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議、ボランティア、視察等、認知症についての啓発に努めている。人材育成として実習生の受け入れを行っている。又、地域包括ケア会議へも出席し地域との連携を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者様の生活の様子、健康状態、ヒヤリハットや事故の報告を行い、御家族や行政、自治会長、福祉推進委員さん等から意見を頂き話し合い、サービスの向上に努めている。今年度はコロナ禍のため開催が制限された。会議の代わりに文書や広報でお伝えした。	○コロナ禍で所定の運営推進会議開催が困難な中においても、詳細な会議資料と丁寧な文書や広報誌を各委員に配布し、電話や文書等で意見や要望を把握し、運営やサービスの向上に反映させようとする姿勢が十分に伺えました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取り組んでいる。	運営推進会議時、日頃の生活を見て頂いたり、意見の交換を行ったり、アドバイスを頂いている。又、事故等の場合は速やかに市へ報告を行い連携を図っている。	○市の担当者とは、日常的に電話や出向いの報告・相談により、情報の共有や協力関係が定着していることを管理者インタビューで伺いました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する学習会を定期的に行い共有している。又センター方式を活用しアセスメントをチームで実践し、本人の思いを大切にしたケアを行っている。ヒヤリハットからの検証や申送りにより安全面でも配慮している。マニュアルがあり共有化している。	○これまで、利用者の身体拘束の事例はないとのことですが、左記の自己評価コメントの通り、身体拘束は、利用者の人権を守る重要な事項として、定期的な研修会、学習会を実施し、全スタッフの周知共有の徹底を図っていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する施設内外の研修への参加や定期的学習会を行っている。又、マニュアルを共有して常に入居者様中心に物事を考え、変化に気づき、随時ケアの見直しを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する外部研修への参加、全体学習会、施設内学習会を行い会議で情報を伝達し共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項、契約書の内容をわかりやすく説明をし、聞きたい事に対しては説明している。又、介護報酬改定時等書面の変更時は、個別に説明をし署名捺印を頂き、同意とご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会、面会時等職員から声をかけ、御家族との信頼関係を大切に何でも言える雰囲気作り配慮している。随時意向の聞き取り、年1回本人、御家族へのアンケート調査を行い意見、要望等頂き支援に活かしている。	○利用者・家族の意見や要望については、毎年度アンケート調査を実施し、また、家族会や利用者の聴き取り調査も随時行い、意見や要望を運営に反映させようとする姿勢が組織の仕組みとして構築されていました。	○家族アンケート調査結果では、スタッフの異動や金銭管理の状況がよくわからないとのコメントがありました。適切な対応をお願いします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り、カンファレンス、グループホーム会議において、職員の意見や要望、思いを聞き話し合っている。必要事項は代表者会議で検討している。又、業務を一緒に行いながら、個別に意見を聞く努力をしている。	○管理者は、事業所のほとんどの会議に出席し、スタッフの個別面談も随時実施して、職員一人ひとりの意見や悩みに適切に対応する姿勢があり、職員インタビューでも「働きやすい、話しを良く聴いてくれる」等のコメントがありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人のキャリアパスや職員教育シートを活用し、面接をしながら目標を設定し、一人一人の仕事の意欲を把握している。又、職員の希望に極力合わせ勤務を組んでいる。休憩室を確保する事でゆったりと休憩できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ローマンうえだ職員教育プログラムに基づき、グループ別研修の実施、施設内外の研修に参加している。又、資格取得に向けての研修、内部学習会へ参加し意欲向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症の人と家族の会の広報の定期購読、地域包括ケア会議へ参加し、質の向上に繋げている。又、同社会福祉法人の他施設との交流もある。事業サービス連絡会の研修等に参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	センター方式を用い、一人一人の想いに寄り添い今までの生活の継続ができるよう生活歴や、生活習慣などご本人、御家族にお聴きしながら安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族が求めていること、思いをしっかりと聞いて把握し、日頃の様子もお伝えしながら信頼関係づくりに努めている。又、その情報については職員間で共有をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人や家族の思い、状況を把握して情報を提供し、ニーズに合ったサービスに繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	センター方式を用い、御本人の立場に立ち、思いを考え、学び、生活の中で共有しながら支えあう関係を大切にしている。買い物、散歩、家事など一緒に楽しみながら行い本人のできる力を発揮してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御本人の日頃の状態を随時報告し、意見交換を行い、御本人と御家族との関係を尊重している。又、家族との情報交換、センター方式等で情報を共有している。夏祭り等イベントと一緒に参加して頂き、共に本人を支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご近所の方が来所されたり自宅への外出、お墓参り、馴染みの美容院やかかりつけ医への受診等、今までの御本人の生活習慣を大切に支援を行っている。	○利用者が大切にしている品物や写真等は居室に飾るだけでなく、スタッフが時々、利用者と一緒に見ながら、写真に写っている人や品物の思い出話を設け、馴染みの人や場との関係性を継続する支援を行っています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーション、食事やお茶、ドライブ、近所への散歩等、御本人の気持ちをお聞きし、コミュニケーションが図れるように職員も共に過ごしている。又、入居者様同士の信頼関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了されたご家族に、ボランティア(マジックショー等)をお願いしたりし継続的な付き合いができるよう努めている。又、施設の行事にお招きしたりして交流を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人の思いを大切に、御家族からも意見をお聞きしている。カンファレンスで、御本人にとって良い支援ができるよう話し合っている。ツールとしてセンター方式を用いて思いを探り、支援に繋げている。	○一人ひとりの利用者の要望や家族の意向については、ケアマネジメントセンター方式により、適切に詳細に記録把握され、ケア計画に反映される仕組みがありました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時センター方式シートを御家族に記入を頂き、話をお聞きし、今までの生活が継続できるよう支援している。職員も協働してセンター方式の記入を行っている。守秘義務、プライバシーの保護には十分に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の生活リズムをセンター方式や申し送りを通して把握し、情報を共有し、できる事、分かることを大切に、その人全体を見てチームで支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の言動・表情から思いを探り、面会時や家族会等で家族の思いや意見を聞き、介護、看護職がカンファレンス等で意見を出し合い、センター方式を活用しながらケアプランを作成している。	○ケアマネジメントセンター方式による、アセスメント、ケア計画、モニタリング様式により、適切な個別介護計画、モニタリングが行われ、担当職員とケアマネジャーの連携のもとで、全スタッフの周知共有も図られていました	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルにより、毎日の様子、言動、食事、排泄、身体状況を記録し、情報を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問看護ステーションと契約し連携することで外部の客観的な医療的視点を取り入れ、質の向上に繋げている。又、介護相談員の定期的な訪問により入居者様のニーズの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で民生児童委員、自治会長、福祉推進委員、行政、地域包括、消防職員を招き、意見の交換を行っている。年2回の防災訓練では、地元消防団の参加、又地区の行事へも参加している。今年度は、コロナ禍のため活動が制限されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	御本人、御家族の希望するかかりつけ医となっている。受診については御家族が行い受診前御家族にノート等も使用して状況をお伝えし情報の共有を図っている。希望時には付き添いを行っている。状況に合わせて、往診の医師へも繋げている。	○かかりつけ医(主治医)は、利用者・家族の希望により、嘱託医や協力医療機関の他にも多数の医療機関がリスト化されていた	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調不良時は看護師に報告し、指示を仰いでいる。又、訪問看護ステーションと契約をし、週1回の訪問時や体調不良時等、随時報告をし相談や処置、医療への連携に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ面会を随時行っている。御家族、医師との連絡を密にし、入居者様の現状把握に努めている。また医師、御家族、本部とも連携をとりながら早期の退院に向けてのアプローチを行っている。今年度はコロナ禍のため医療機関への面会は制限されているので、連絡を密に情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	御本人、御家族に終末期の希望を「看取りに関する意思確認書」にその時点での思いを書いて頂いている。本人の気持ちを尊重し、事業所のできることを伝えながら御家族、医師、看護師と情報の共有をしている。	○重度化や終末期支援についての事業所の対応については、利用開始時や利用者一人ひとりの状態・段階ごとに家族やかかりつけ医、訪問看護、スタッフの意向を確認しながら、法人の施設・事業所とも連携して、より適切な対応ができる仕組みがありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	学習会などで、応急手当、初期対応等学んでいる。又、消防署とも連携し、心肺蘇生法、AEDの使用方法など実践を学んでいる。マニュアルを定期的に見直している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回(内夜間1回)入居者様と共に実施。御家族、地域、行政の方にも訓練の様子を見て頂き、意見を頂いている。又、消火器の使用方法についても消防署より教えて頂いている。日常的に避難路の確認、施設まわりの掃除や学習会を実施している。	○防災計画により、昼間、夜間を想定した避難訓練を年2回実施しています。訓練は少ないスタッフで、毎回役割分担を変えて、全スタッフ一人ひとりが役割・業務を周知共有できるように工夫した訓練を実施していました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重した言葉かけを心掛けている。又、月1回の事例検討会の参加やグループ別の研修に参加している。個人情報の保護、守秘義務についても十分配慮している。GH会議でプライバシーについて毎月話し合っている。	○毎月、グループホームの人権研修、プライバシーポリシーに関する研修会を実施し、利用者の尊厳と権利を守るため、全スタッフの周知徹底に努めていることを研修会資料や会議録で確認できました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩、買い物、近所の方との交流や、食事、又、衣類を選んだり等、御本人の意思を確認しながら行っている。意思表示困難な方は、表情や仕草、本人の好み等から思いを探っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	御本人の思いを尊重し、生活のリズムを把握して職員が共に寄り添いながら支援している。職員一人一人が入居者様の行きたいところ、やりたいことができる環境作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今まで使用していた物を持ってきて頂いたり、その方らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。又、訪問美容師さんに髪型の希望を伝え、その方らしい整容ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節、地域の食材を利用し、好みを取り入れたり希望をお聞きし食事を楽しんで頂いている。又、料理を教えて頂いたり、できることを把握し、盛り付け、片づけ、皮むきなど会話をしながら共に行っている。	○スタッフの中には、地元地域の職員も数名いて、地域の郷土料理や食材に詳しく、献立メニューにも反映されて、利用者さんにも喜ばれているとの話を職員インタビューで伺いました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご飯、味噌汁以外に2~3品を提供している。又、食事、水分量を記録し、不足時には好みを取り入れたり、間食等で栄養補助をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後歯磨きの声掛けを行い、一人一人の状況に応じて清潔に努め、環境を設定したり介助している。口腔に異常があるような時は、訪問歯科や家族と連携し受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録やセンター方式を基に、排尿間隔や本人のサインを共通認識し、その都度対応している。トイレの場所が分からない方には、自尊心を大切に声掛けや対応を行っている。	○排せつの自立支援のもとで、できるだけオムツやポータブルトイレ等は使用しないで、トイレ誘導と見守りを基本にしていることを職員インタビューで伺いました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事献立の工夫、午前のお茶の時間に乳製品を取り入れたり、水分摂取にも注意をしている。又、体操や散歩、外出など体を動かすことで予防に努めている。時間を見てトイレにお誘いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	事前に本人へ意思確認を行い、入りたくない時は時間や日にちをずらし入浴して頂いている。御自分のペースで、一人ひとりの入浴習慣を大切にしている。必要に応じリフト等使用し安全に入浴できるよう支援している	○入浴は、週2回で利用者個々の体調や希望に応じて、時間等柔軟に対応していることを伺いました。また、浴槽は個浴でマンツーマン対応により、羞恥心を軽減し、さらにリフト機器の活用により職員の負担軽減を図っていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	在宅での生活習慣や、一人ひとりの休息時間を把握し、その時の状況に合わせた支援をしている。室温や布団の調整、音や光等の環境に配慮し安心して、気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員が内容を把握し、情報を共有している。服薬時は一人ひとりに対応して、確実に服薬できたか確認している。又、服薬内容変更時は申し送り等へ記録し、症状の変化や情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を参考にし、家事、食事の手伝い、塗り絵、折り紙、新聞、読書や歌など一人一人の力を発揮でき、共に楽しみ張り合いが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調、気候に合わせて、散歩、ドライブ、買い物、自宅への外出など希望に沿った支援を行っている。又、御家族と連携しドライブ、外食、買い物などに出かけられるよう支援している。今年度は、コロナ禍のため活動が制限されている。	○コロナ禍以前は、左記のように頻繁に外出・参加活動が実施されていたようです。コロナ禍で一部の活動制限や参加制約がありますが、リハビリ活動やおやつ作り、テイクアウト等美味しいものを皆でいただくことでストレス解消に努めているとのことでした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物等要望がある時は御家族と相談し、社会生活に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御本人の希望に沿って御家族にも理解を頂き、電話を掛けている。又、御家族からの電話の際はスムーズにコミュニケーションが図れるよう支援している。又、年賀状等書いて頂き御家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室温、湿度、外気温を毎日チェックする。冬季は加湿器等使用し、生活環境に注意している。又、季節の食材を取り入れたり、季節の花を飾ったり季節感を出している。中庭には、鳥や猫などの動物が訪れます。	○特に食堂、台所、居間等の共用スペースは、ワンフロアでオープンになっており、採光が良く、雪見障子から周囲の田園風景や烏帽子岳も眺望でき、ソファや椅子で利用者さんがゆったり寛いでいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	木造で温かみのある空間で、3箇所の談話スペースがあり、ソファ、テーブルでゆとりと寛ぐ事ができる。又、花や入居者様が描いた絵画、書などを飾り落ち着いて寛げる環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた馴染みの物が居室でも使用されている。又、御家族と連携し写真や小物を飾り、居心地良く過ごせる空間作りを目指している。	○居室は、全個室で明るく広々としたスペースになっていて、備え付けの家具やタンス等の他にも利用者さんが馴染みの品物を持ち込める、十分に余裕がある設備になっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室等手摺を設置し安全に配慮している。トイレ、居室の場所が分かるよう配慮したり、夜間はトイレの場所が分かるようライトアップしている。		